

# 12月9日に実施した現地調査会・意見交換会

- 台風第19号により発生した土砂災害の中でも象徴的な箇所として、宮城県伊具郡丸森町の土砂・洪水氾濫、群馬県富岡市内匠の緩やかな斜面における崩壊性地すべりの発生箇所を調査。
- 調査後の意見交換会において、今後の検討の方向性に関して意見交換会を実施。



現地調査会の実施状況



委員らによる意見交換

1. 日時 令和元年12月9日(月)9:00~15:45
2. 場所 現地調査 ①宮城県伊具郡丸森町、②群馬県富岡市内匠  
意見交換(富岡合同庁舎1階大会議室)
3. 参加者 座長 藤田 正治 京都大学防災研究所 教授  
内田 太郎 筑波大学生命環境系 准教授  
執印 康裕 宇都宮大学農学部 教授  
中北 英一 京都大学防災研究所 教授  
堀田 紀文 東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授

## ○ 主な意見

- 富岡市内匠地区で生じたような緩勾配斜面での土砂移動現象は、高強度の短時間降雨だけでなく、土中の水分量を増加させる比較的長期的な降雨も影響したのではないかと考えられる。
- 気候変動により引き起こされる土砂移動現象を予測する上では、過去に生じた土砂災害とそれを引き起こした降雨パターンとの関係について整理し、それに基づいて将来増加すると予想される降雨パターンを入力した予測を行う必要がある。
- 過去の土砂災害を分析するにあたっては、当時の森林状況などの流域特性の変化に留意すべき。
- 緩勾配斜面の土砂移動現象への対策を講じるには、危険度の評価手法を検討することが重要。